

事例報告の作成の手引き

会話記録検討会に、事例報告(会話記録)として提出する内容の説明

- ・自分の記憶を頼りに作成し、内的経験をできるだけ詳しく記述してください。
- ・A4用紙2枚以内にまとめてください。文書のレイアウト、余白、文字数・行数、フォントなどで工夫してください。なお、文字サイズは11ポイントにしてください。
- ・実際の事例のすべてを会話記録に起こし出す必要はありません。自分にとって気になったり、印象に残った、連続した場面だけを抜き出してください。(要約のような記録にせずに、必ず、会話者双方の反応が分かるような、連続した場面について書いてください。)

※同一のケア対象者に対する継続的な関わりを報告する場合には、複数の事例報告書をお書きください。

- ・日付や場所は(例)のようにして隠してください。ケア対象者やスタッフの個人名は書かないでください。

ただし、更新審査時点で事例が有効かを確認するため、事例の年は明記してください。

- ・何回目の訪問なのかを記載してください。(例) 全52回中17回目ならば、17/52回目の訪問
- ・冒頭に、ケア対象者に関する状況、病名、家族背景、SC師がこの事例に関与した経緯・きっかけ、会話場面の直前の状況、などについて記載してください。

- ・()を使って、相手の様子、状況説明などをできるだけ書き加えてください。

- ・[]を使って、自分の気持ちをできるだけ書き加えてください。

※提出物には、マーカーや網掛けは不要です。

- ・最後に、会話場面の後の状況を簡単に記載してください。
- ・M5、C14のような記号は、会話記録を分析するために使用するのので、対話相手の番号とずれても構いません。
- ・方言を無理に標準語に直す必要はありませんが、適宜補足説明をしてください。
- ・なるべく、教学・神学・宗学的な用語を使わないようにしてください。
- ・①対象者理解 では、ケア対象者のアセスメントを事例状況に即して記載してください。表のすべての箇所を埋めなくても構いません。詳しい記載方法を後段で説明します。

- ・②自己理解 では、SVの指導を受ける前の自己理解、課題、反省点などについて記載してください。

- ・③SV後の振り返り では、SVの指導を受けた後で気付いたことを記載してください。(SVの指導を受けていない事例では、この③を記載する必要はありません。)

- ・次項の会話記録(例)は、架空の事例です。

会話記録検討会(SVの指導)後に、事後レポートとして加筆する内容

※「事例報告はA4用紙2枚以内に収めるように」とした従来の指示は、2021年7月の審査以降、改定されました。

「スーパーバイザーの指導を受けたのちに、事例報告作成者が振り返り・気づきを加筆するスペースがなく、規定のA4用紙2枚以内には収められない」という指摘がありました。これを受け、2021年7月の審査以降、事例報告作成者の振り返り・気づきについて、3枚目として加筆することを認める方針が、2021年1月31日の資格認定委員会において検討され、同年2月5日の理事会にて承認されています。

※ 振り返り・気づきの加筆前の事例報告自体(①～②)が、A4用紙2枚以内に収められるべきであったとした従前の規定は、変わりありません。

※ また、移行にかかる経過措置として、2枚に収めるための工夫を講じた従来の様式による事例報告も、審査のための申請書類として認められます。

①対象者理解の表の記載方法

思いの対象	積極的感情表現	消極的感情表現
超越的		
現実的		
内的		

・ケア対象者の言動や心的状況などを参考にして、積極的感情の表現（ケア、支え、願い、希望、愛情、信頼、期待など）、消極的感情の表現（ペイン、苦悩、不満、不信、挫折、失敗、怒り、不安など）を記載してください。その感情や思いが向けられた対象を、「超越的」「現実的」「内的」の3つに分けています。6箇所をすべて埋める必要はありません。

・6箇所のどこにも当てはまらないことは、欄外に記載しても構いません。

・超越的（超越的なもの、法縁、超越的他者、超越的次元）：神仏、死者、宗教性、哲学など

〔積極的感情の例〕 亡き祖母との絆、信仰心、神への祈り、座右の銘、天国への期待

〔消極的感情の例〕 神への不信感、地獄に落ちないか、亡き姑に会いたくない、嫌いな言葉

・現実的（他者や環境事象、他縁、水平的関係、現実的次元）：人間関係、大切なモノ・コト・活動など

〔積極的感情の例〕 うどんを食べたい、家族への感謝、ペットに会いたい、信頼できる人

〔消極的感情の例〕 父への怒り、誰も信用できない、孤独、財布を落とした

・内的（内的自己、自縁、究極的自己、内的次元）：過去、未来、自分自身、内面など

〔積極的感情の例〕 なつかしい思い出、明日への希望、今を生きる、独りがいい

〔消極的感情の例〕 家族の行く末が心配、過去の失敗、むなしい人生、自分を許せない

<参考文献>

大下大圓・梶山徹（2020）APC-人生会議で心のケア。ビイング・ネット・プレス、pp.59-62.

河正子（2005）スピリチュアリティ、スピリチュアルペインの探究からスピリチュアルケアへ、緩和ケア、15(5)

窪寺俊之（2008）スピリチュアルケア学概説、三輪書店、pp.23-26

谷山洋三（2016）医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア、中外医学社、pp.68-74

2018年1月y日 14時～14時20分(20分) P氏自宅(中部地方) 1/1回目の訪問

対象者:P氏(50～60代、女性) SC師(Y):山田太郎

P氏は、昨年末の豪雪により被災。自宅は半壊。避難所で生活しているが、正月なので片付け・掃除・荷物の整理、神棚・仏壇の供物などのため一時帰宅。8年前に糖尿病発症、今は月1回通院。夫は海外に単身赴任中。娘2人は都会で就職。近隣住民や村内の親戚とは良好な関係。

(A町社協の割り振りにより、除雪ボランティアとして他3名とともにP氏宅を訪問。休憩中に話が始まる。キッチンでお茶を飲みながら、何気ない話の後、以下の会話になる。他3名も聞いているが、徐々に私にだけ話すような形に。)

P1: 旦那も娘たちも、帰ってくるって言ってただけど。止めとけて (P氏が伝えた)。

Y1: どうしてですか? [ちょっと驚く]

P2: 帰ってきて、寝るところもないし。避難所は狭いし。家は寒くて、灯油も買って来れない。隙間風が冷たい。春になって直してからじゃないと。(淡々とした様子)

Y2: そうなんですね。[なるほど、しかたないか]

P3: …、(長い沈黙) [どうしよう、もう少し待ったほうがいいかな、こちらから話したほうがいいかな]

Y3: でも、ご家族に会えないと寂しいですね。

P4: そうだね。心細い。(目が潤む) [つらいよなあ]

P5: (急に元気な声で) でも、皆さんに来ていただいて、ありがたいです。一人じゃ、どうにもできないから。

(涙声で) ありがとうございます。心細くて。何から片付けていいのかわからなくて、考えられないでいて。(少し落ち着いて) 避難所だと、近所の人や、親戚もいるから、話し相手もいるけど、(声が小さくなる) 一人で家に帰ると…、(うつむく)

(同席している他の3人は心苦しそうな顔をして頷いている。Yは、起伏のあるP氏の感情が心配になる。Yを含めて皆が、どう声をかけていいかわかっている。)

Y4: [どうにかしないと] (P氏の手を握って) 心細いですよね。一人だと。

P6: (Yの手を握り返して) ありがとう。皆さんのおかげです。(涙を流す)

P7: (しばらく沈黙) [さっきの沈黙ほど困っていないが、なんとか力になれたかな]

P8: 旦那も、娘も毎日電話してくれるの。(少し明るくなった) スマホでテレビ電話できるからね。顔を見るとホッとします。でも避難所で、みんながいるから、泣けないし。ハハハッ(無理な?笑顔) [急にPさんが明るくなって困惑]

P9: ありがとね。来てくれて。そろそろ日が暮れるから、今日はこれでおしまいね。(立ち上がる) あとは、帰る準備してね。ありがとうございます。[あれれ、急に終わったような感じ]

(P氏はお茶を下げはじめる。Yを含めて4人とも帰る準備を始める。その後、お別れの時にはP氏から丁寧に感謝が述べられ、1人1人握手をして別れる)

①対象者理解：

思いの対象	積極的感情表現	消極的感情表現
超越的		
現実的	娘の電話、ボランティアの存在	家族に会いたい
内的		先が見えない

②自己理解：

1対1の場面でもなく、作業をしながらだったので、傾聴に徹しているのかどうか、このまま沈黙のまま待ったほうがいいのかなど、戸惑うことが多かった。Y4で自分から手を握ったのは、「この場をどうにかしなければ」という思いがあったからだと思う。

最後は急に終わってしまった感じがして、自分の気持ちの落ち付け所を見つけられなかったが、最後に握手をしたときに、「離れていても1人じゃないよ」という気持ちを込めた。しかし、これは言葉にして伝えるべきだったと後悔した。また、Y4で手を握ったのは適切だったかどうか、SVと検討したい。P氏の心細い様子に思わず手が出たのだが、P氏にはその気持ちは誤解なく伝わったように思う。

③SV後の振り返り：

会話記録検討会（SVの指導）後に、事後レポートとして加筆する内容

Y4の握手は、SVより「性別が異なるので倫理的には問題になる可能性もあるが、年齢は親子ほどの差があるので（Yは32歳）、結果オーライ」という指摘を受けた。少し安心したが、倫理面は常に意識したいと思う。また、何のための握手だったのか、自分のためだったか、Pさんのためだったか、自分でも判然としないが、この点はもう少し考えておくべきだと思った。

お別れの時の握手は、SVより「気持ちは伝わったのでは」と優しい助言をいただいたが、やはり言葉にして伝えた方がよかったと思う。私は大切なことを、大切だからこそ照れて言葉にしないことがあり、この「照れくさい」という気持ちをどうにかしなければ、と以前から思っていた。SVからは「責任感、相手への依存もしくは“伝わるだろう”という甘えではないか」と指摘され、心に刺さるものがあった。自分自身がもっと大人として自立（自律）しなければと思った。